

高齢者に多い

脳卒中後てんかんの診かた



猪原匡史 (国立循環器病研究センター脳神経内科部長)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶ 登録手続

Introduction	p2
1 脳卒中後てんかんの頻度	p4
2 脳卒中後てんかんの定義	p5
3 脳卒中後てんかんの症状	p6
4 脳卒中後てんかんのリスク評価	p8
5 脳卒中後てんかんの診断, 画像所見	p12
6 脳卒中後てんかんの治療・予防	p14
7 脳卒中後てんかんの予後	p18
8 正しい疾患理解が脳卒中生存者のQOL向上につながる	p18

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

Introduction

1 脳卒中後てんかんの頻度

- ・脳卒中後てんかんは、高齢者のてんかんの半数を占める。
- ・脳卒中後てんかんは、高齢者のコモンディージーズである。

2 脳卒中後てんかんの定義

- ・脳卒中後てんかんは、脳卒中後1週間以内に起こる早期発作と、1週間以降に起こる遅発発作に分類され、背景病態が異なる。
- ・脳卒中後てんかんでは、1回の非誘発性発作（遅発発作）でも、その後の10年間で発作が再発する可能性が高いため、てんかんと診断して治療を始めてよい。

3 脳卒中後てんかんの症状

- ・脳卒中後てんかんの4割は持続時間が短い部分発作であり、痙攣を伴わないことが多い。
- ・脳卒中後てんかんの正診への第一歩は、脳卒中生存者の症候からこの病態を疑うことである。

4 脳卒中後てんかんのリスク評価

- ・脳卒中後てんかんのリスク評価指標として、脳出血ではCAVEスコア、SeLECTスコアが知られている。
- ・脳卒中後てんかんの新リスク指標として、脳表シデローシスを組み込んだCAVE-Sスコア、SeLECT-Sスコアが考案された。

5 脳卒中後てんかんの診断、画像所見

- ・脳卒中後てんかんの診断には、脳波検査が必須である。
- ・脳卒中後てんかんの補助診断法として、脳血流SPECT法による過灌流所

見が知られている。

6 脳卒中後てんかんの治療・予防

- ・脳卒中後の早期発作予防には、スタチンが有効である可能性がある。
- ・脳卒中後てんかんの予防において、新世代抗てんかん薬の有効性・安全性が示唆されている。

7 脳卒中後てんかんの予後

- ・脳卒中後てんかんを発症すると、脳卒中の予後自体が悪化する。
- ・脳卒中後てんかんの予防が、脳卒中生存者の長期予後を維持するための鍵となる。

8 脳卒中生存者のQOL向上

- ・2018年に成立した「脳卒中・循環器病対策基本法」にも、脳卒中の後遺症のひとつとしててんかんが取り上げられている。
- ・新世代抗てんかん薬の導入は、高齢で服薬数の多い脳卒中患者にとっては特に有用性が高い。
- ・アルツハイマー型認知症の合併は、てんかんの有病率をさらに上昇させる。高齢者において、脳卒中-認知症-てんかんは疾患トライアングルを形成しがちである。

1 脳卒中後てんかんの頻度

かつて日本の死因の第1位は脳卒中であったが、高血圧や脂質異常、糖尿病といった血管危険因子に対する管理、rt-PA静注療法、血管内治療といった脳梗塞急性期治療の進歩により、脳卒中による死亡率は劇的に改善された。しかし同時に、脳卒中生存者が増加し、その神経学的・身体的・心理的な問題として、認知症、てんかん、フレイル、誤嚥性肺炎、うつ病、骨粗鬆症といった諸問題にこれまで以上に焦点が当たっている。

脳卒中後てんかんは、脳卒中生存者の約7~12%に合併すると報告されている¹⁾。国立循環器病研究センターのような年間1000人を超える脳卒中患者が入院する施設には、年間100人以上の脳卒中後てんかんの患者も入院しており、てんかん診療は今や脳卒中医にとって必須のスキルとなった。超高齢社会において、てんかんは、小児よりも高齢者の有病率のほうが高く、特に脳卒中後てんかんは、高齢者(65歳以上)のてんかんの半数を占めている(図1)²⁾。このことから、脳卒中後てんかんは、高齢者のコモンディゼイズであるとも言える。

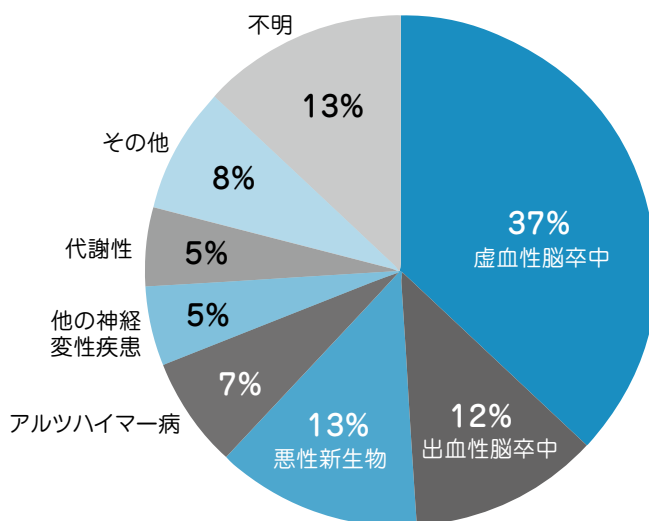


図1 高齢者てんかんの内訳

(文献2より作成)

こうした疾患構造の劇的な変化を受け、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (Japan Agency for Medical Research and Development :